

古川澄明先生のご退職にあたって

古川澄明先生は平成28年3月31日をもって、本学を定年によりご退職されます。先生の29年の長きにわたるご貢献に心より感謝し、本号を退職記念号として発行いたします。

先生は神戸大学大学院経営学研究科博士課程を修了された後、鹿児島経済大学経済学部講師、助教授を経て、昭和62年4月に助教授として経済学部を迎えられ、平成5年8月教授に昇任されました。先生は経営学とりわけ欧米経営史がご専門で、教育、研究、学部及び大学運営など様々な面において活躍され、経済学部はもとより山口大学の発展に寄与されました。

先生は博士課程在学中より今日に至るまで、主として欧州の自動車産業に関する研究を精力的に進められてきました。欧州自動車産業の中でもとりわけドイツのフォルクスワーゲン社の特異性に着目され、数多くの研究成果を残されました。

本学ご着任以前には、フォルクスワーゲン社の誕生史やドイツ自動車産業界の「国民車プロジェクト」に関する一連のご業績により、フォルクスワーゲン社を軸にドイツ自動車産業の成立及び発展過程について考究されました。ヒトラーが体現する「指導者原理」のもと、国民車フォルクスワーゲンの開発が、ドイツ自動車産業界とヒトラーの思惑、そしてドイツ労働戦線の登場により国家権力主導で進められる様をドイツの公文書や会議録を基に丹念に明らかにされました。

本学ご着任後、ベルリンの壁崩壊という歴史的な節目があり、ご研究は第2次世界大戦下におけるフォルクスワーゲン社における「強制労働」の導入実態とその管理的統制、東部ドイツにおける自動車産業クラスター形成、欧州自動車メーカーのグローバル戦略とアジア市場、そしてドイツ統一という大変革期における人

民所有財産の「民営化」に関わる信託公社の法的側面について研究を進められ、優れた研究成果を発表されました。

本年1月23日の最終講義では、「第4次産業革命IoT化の進展と次世代ビジネス・イノベーション～「ものづくり」システムの最前線と大学～」という題目で、新たに取り組まれているご研究について講義されました。有形のモノと無形の情報通信技術とを知能化技術により結びつけるIoTが、ドイツではインダストリー4.0として製造業の標準化戦略の要であり、ドイツ自動車産業においても将来の趨勢を左右するとのこと説明がありました。

先生は経営学科経営管理講座を担当され、学部では経営史や欧米経営史を、また大学院では国際比較経営史研究や経営史の基礎研究等の講義を担当され、多くの学部学生や大学院生を世に送り出されました。先生は山口県における伝統的地場産業である下関フグ・ビジネスのご研究もされており、最終講義にはフグ・ビジネスに関する薫陶を受けた門下生も参加しました。

学部及び大学運営面においても多くの委員を務められました。学生部委員をはじめ、教務委員会、学生委員会、東研・図書委員会委員長等の各種委員会委員長を歴任され、学外では美祢市産業振興推進審議会会長、美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議委員を勤められ、地域社会の発展に貢献されました。引き続き地域の要職への就任依頼があるとお聞きしています。

研究面では、精力的に研究を展開され山口大学研究主体教員に選ばれるなど、本学の研究活動に対し各段の貢献をされました。先生はアイデアマンであり、ご退職前年には *Kickoff Conference 2014 on Building of International Cyber Cooperation between Archives Possessing Modern-East-Asian Historical Records* の開催に尽力され、本学部附置「東亜経済研究所」の国際的な認知度を高めるための道筋を示されました。

この度、定めによりご退職されますが、先生の長年のご尽力に心より感謝申し上げます。また、これからも先生との絆が末永く続きますよう切望するとともに、先生のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

平成28年3月31日

山口大学経済学部長 成 富 敬